



教育あがつま HOT NEWS

第 47 号
平成28年10月3日(月)
吾妻教育事務所 発行

「めあて」と「振り返り」について

計画訪問より

計画訪問で公開された授業の「めあて」と「振り返り」の現状と課題についてまとめました。

<めあて>多くの先生方が昨年度以上に児童生徒にめあてを意識させて授業を展開しています。今後は、さらに質の向上を図って欲しいと思います。そのためには、伸ばしたい資質・能力を明確にし、これを基に目標（めあて・ねらい）の設定をお願いします。

<振り返り>「計画に無い」「時間が無い」「めあてと振り返りの内容のずれ」等が見られました。今後は、めあてに沿って振り返りができるよう、中心活動の精選による振り返り時間の確保や振り返らせる内容の検討をお願いします。

〜〜 参考例の紹介 〜（枠中：**め**=めあて、**活**=主な活動、**振**=振り返り）

活動中に気付いたコツを自分の言葉で整理することにより理解を深めさせ、学んだことの有用感を高めている事例。

算数 小学校3年
「大きい数のわり算」

め 習ったことをもとにして2ケタ÷1ケタの計算のしかたを考えよう。

活

- ・ 答えの見通しをもたせる活動を行う。
- ・ 操作活動を取り入れたり、式や図などに表したりして考える。



振

T：今日気付いた「計算のしかたのコツ」を整理してみよう。

S1：まずは、十の位に目を付けられよう。

S2：2ケタ÷1ケタの計算は、十の位と一の位の数に分けて計算し答えを合わせられよう。



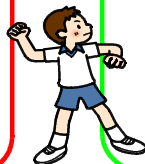
チームでの話し合いの中で出た言葉「体をひねる」「左足を前」等をキーワードとして可視化しておくことで、自分の動きと照らし合わせ、振り返りにつなげている事例。

体育 小学校4年
「ティーボール」

め 体を上手に使って、ねらったところへ投げられよう。

活

- ・ キャッチボール後、上手な投げ方についてチームで話し合い、キーワード化する。
- ・ キーワードを意識して的当てゲームやメインゲームを行う。



振

T：ねらったところへ投げられするには、どのように体を使うとよいでしょう。

S1：体をひねるけど、的をいつも見て投げられるとよい。

S2：投げられ方へ左足を一步前にふみ出すとコントロールがよくなった。

授業づくり の手順

- ①伸ばしたい資質・能力を踏まえて「めあての設定」をする。 **め**
- ②「めあてを達成した姿（言動）」を明確にする。 **振**
(指導案中の中心活動や振り返り部分に“子どもの意識”として明記できる)
- ③その姿に迫るために「中心活動の精選・工夫」をする。 **活**

主な学習活動

指導のポイント

確認

切れ字や倒置法などの表現技法や季語について、生徒の言葉を利用し確認する。

本時の課題解決につながる既習事項について確認

めあて

季語や切れ字などに注意して、グループで話し合い、鑑賞文を自分なりの言葉でよりよく表現しよう。

黒板やホワイトボードなどで可視化すると、「常に意識させる」「振り返りで活用」が可能

- ・鑑賞文は、「情景描写」「作者の心情の想像」「鑑賞者の感想」という三段落構成にする。

追究する活動

俳句「金閣寺 夏の京都に 光りけり」についての鑑賞文を自分なりの言葉で表現させる。

個で考える時間を確保

<意識すること>

季語（季節）、表現技法（切れ字や倒置法など）

考えが進まない生徒に対しては積極的に支援し、交流の時間を確保



- ・TTによる個別指導を徹底する。
- ・苦手な生徒への支援（ヒントカードの活用）をする。

グループでの交流

- ①話し合いの観点を提示する。
 - ・「どの語句に目を付けたか」
 - ・「何を感じたか」



個の考えを深めたり、広げたりするために、観点を明確にしたグループ活動を設定（4名程度）

- ②上記の観点について「なぜ、そう考えたのか（理由）」を明確にして交流させる。また、お互いによさを伝えたり、質問に回答したりする中で考えを深めさせる。

観点に沿って話し合いが進んでいるか机間支援

活動の目的を明確にし、中心活動を精選することで、振り返りの時間確保にもつながります。

意見交流を踏まえて自分の鑑賞文について修正する。

学習を個へ戻し、自分の考えをまとめ直す時間を確保

振り返り

グループでの話し合いを通して、分かったことや考えたことを自分の言葉でまとめてみよう。

目標（めあて・ねらい）に沿った振り返り
・中心活動で身に付けたことや気付いたことなどへの問い掛け

- S1：切れ字に込められた作者の思いについて話し合ってみると、人によって感動の強さに違いがあったので、表現を大切にしたい。
- S2：自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりすることで、言いたかったことが少しずつがはっきりしてきたので、これからも続けたい。